

2005年度・「政治学」

(月曜7限開講 担当：宮下大志)

学年末試験 問題用紙

2006/1/30 (月) 7限実施 披見：否

注意事項

1. この試験は、問題用紙と解答用紙が別になっているので、留意すること。
2. 時間になるまで問題用紙の次ページ以降の内容は見ないこと。
3. 試験開始以前に、解答用紙に必要事項（受験者の所属や氏名等）を記入しておいてもかまわない。ただし、学生証の提示、受験カードの記入等、試験監督の指示を優先すること。
4. この問題用紙は、表紙も含めて、片面印刷で4ページである。試験開始時間になったら、乱丁・落丁がないかを確認した上、解答を始めること。
5. 問題用紙は回収しないので、各自持ち帰ること。
6. 全く解答不能の場合でも、答案用紙は必ず提出すること。
7. 答案用紙の表の面に書ききれない場合には、裏面に書いてもかまわない。ただしその際には、解答用紙に指示されている方向から書きはじめること。
8. 不正行為があった場合、あなたの将来に大きな影響を及ぼすことになるので、不正行為は絶対にしないこと。
9. 文字は読みやすい字を書くよう、心掛けること。
10. 問題に答えず、ただノートの内容を再現しただけの答案には単位が与えられないので、ちゃんと問題に答える形で答案を書くこと。
11. 優秀な答案を作成した者には、後日氏名を発表して表彰するが、氏名の公表を望まないものは、解答用紙冒頭に、その旨明記すること。

あなたは、日本にはいくつ都道府県があるか、知っているだろうか？

… 正解は「47」。

そう、表向きはそう言われている。しかし実は ...

実はもう一つの県があったのだ。

それは「どいなか県」。あまりに「ど田舎」にあるため、交通・通信面でも他から隔絶され、人々に忘れ去られた県なのである(これは、『こちら葛飾区亀有公園前派出所』に出てくる話なので、確かな話です)。

この「どいなか県」は、規模としてはせいぜい「町」程度で、しかも周りから隔絶されていたため、社会のあり方、産業も百年前の状態なのだ(ここからは『こちら亀』の設定とは違います。こだわる人に、念のため)。人々は、自由民権運動や、大日本帝国憲法、議会開設については、何十年遅れかはわからないが、知っているようで、口々に「将軍様の頃とくらべると、最近は時代の変化が激しい」と言っている。

さて、何の拍子にか、あなたは、この「どいなか県」にタイム・スリップならぬ「スペース・スリップ」してきてしまったのだ。そして、県民に、「未来(?)」のいろいろな情報を知っているため、尊敬される存在になってしまったのである。

あなたは、人々と話しているうち、人々が中央政府に非常な不信感・不満感を持っていることに気がついた。

「他の県では、政府の予算で、『おか蒸気』を引いてくれているそうじゃないですか。うちは、田舎なので、後回しにしてもいいってことなんじゃないですか？」

「東京府や、その近所の県では、『エレキテル』だったか、『電気』だったか、それとも『ガス灯』だったかな、夜でも明るく道を照らしてくれているそうじゃないですか？ それなのに『どいなか県』では、夜の治安なんて、どうでもいいことだって言うんじゃないですか？」(正確に旧仮名遣いにすると、みなさんが読めないおそれがあるので、部分的な変更にとどめました。それにそもそも、私自身が旧仮名

遣いを完全には使いこなせません)。

県民はあなたに迫ってくる。

「〇〇先生(あなたのことだ)、ここまで、『どいなか県』がないがしろにされている以上は、日本からの独立しかないのぢやないでしょうか？」

他の県民は言う。「一揆だ！ 一揆だ！」

別の県民がたしなめる。「最近『一揆』なんて言葉は使わないの！ あれ、ええっと、『革命』だっけ？」

みんな口をそろえて言った。「先生、独立して私らなりの国を作りましょう！」

「賛成！」 「賛成！」

県民達の気持ちはよく分かる。それに、ここまで利益関係がない以上、日本国もこの「どいなか県」の独立に、わざわざ干渉はしてこないだろう。それならば、独立宣言をして、国づくり・近代化を自分の手で進めてみようかな…

そこに「長老」が口を挟んだ。

「先生、そして皆の衆、一つ気になることを伝え聞いておる。文明が発達すること自体は悪いことではないのだろうが、そうなると、人々が、自分のことだけにかまけて、『助け合い』の精神を忘れてしまうというのぢや。日本国は『民主主義』というものを取り入れているそうぢやが、せっかく普通の百姓も政治に参加できるようになったのに、政治に知らん顔をする者も多いと聞く。先生、わしらはたしかにおくれているかもしれん。ただ、わしらは、他人のことは知らない、という、そんなみずくさい社会に生きていないことが誇りでもある。げんに、みんなが助け合う社会がここにはあるのぢや。それを壊さないでほしいのう」

「長老」は続ける。

「いやいや、わしは独立に反対というわけではない。わしらのあり方が他の日本国の衆と違う以上、やはり独立するのが正解ではあるまいか。ただ、いくらおくれているからといって、日本国の後追いをしてほしくないだけなのぢや。先生、独立

のこと、そしてその後のこと、よろしく頼みます。わしは老い先が短いので。」
県民は言う。

「長老様のおっしゃる通りぢゃ。いくらおくられているとはいえ、うちはうちの誇りがある。先生、頼みましたぞ！ いい国を作り上げて、日本国を見返してやりましょう！」

さて、独立の親分に担ぎ上げられてしまったあなたである。あなたに、独立後の政体のあり方は任せられている。もしかしたら、あなたの強権政治も可能かもしれないが、しかしあなたは、宮下先生の政治学を履修していたので、独裁はもともと嫌いだし、ここでのんびり暮らしている人々のことを考えると、平和で平等、あくせくしなくても済むような民主主義の世の中を築きたいと思っている。

さて、「『どいなか県』独立宣言・『どいなか共和国』設立宣言」以降、どのような民主主義国家をこの百年遅れの地に設立してゆくのか、そしてどのような面で日本国を見返してやろうとするのか、その百年越しの基本計画を解答用紙に展開しなさい。

問題に設定されていること、または時代背景からよほど外れていない限りは、解答者がこの社会の状況、そしてその後の発展を自由に設定してよい。

ただし解答の際、以下に挙げた12の語のうち少なくとも7つ以上をそのまま使って、解答すること。そして、それらの語をそれぞれ最初に使った箇所では、その語を で囲むこと。もちろん、下記の語群以外にも、この講義の内容を参照しながら、多角的に論じることが望まれる。

なお、「就職が決まっているので単位がほしい」など、個人的な事情を述べて単位を懇願する記載のある答案は0点とする。時間に余裕のある場合は、講義・試験についての感想を末尾に書いてほしい（ただし、採点対象にはならないので、時間のない中、無理に書いてくれなくてもいい。後に会った時にでも聞かせてくれれば、その方がいいだろう）。語群：（省略）